

## オージースポーツ・プログラムと受講生の反応について

— S 専門学校の場合 —

○下田 由香 (スポーツエデュケーションアカデミー)

田代みみこ (スポーツエデュケーションアカデミー)

キーワード：オージースポーツプログラム 生涯スポーツ

### I. はじめに

最近、我国において、いわゆるニュースポーツが大きな拡がりを見せている。従来までの既成スポーツに飽き足らず、誰でも、どこでも、いつでも楽しめるスポーツ (生涯スポーツ) として、人々の心を捉えたことに外ならない。

このような中で、オーストラリアにおいては「オージースポーツ (AUSSIE SPORT)」の普及がみられ、日本においては (財) 日本レジャースポーツ振興協会が中心となって、紹介・普及が行われてきた。1995年4月より、その紹介及び学生の理解を高めるため、教科の一つとして導入を試みた。

本報告の目的は、日本においてはまだ普及の域に達していないオージースポーツの概略を紹介すると共に、学生の反応 (興味・関心) の一端を報告することにある。

### II. オージースポーツ・プログラムの概要

このプログラムはオーストラリア・スポーツ委員会 (Australasian Sport Commission 略称ASC) と州政府スポーツ、レクリエーション&教育省が、幼児からスポーツ教育に一貫性を持たせ、生涯にわたってスポーツを続けていけるように開発したスポーツ教育プログラムであり、1986年から実施されている。特徴は子供の発達段階や年齢にあわせて7段階に分けており、どの段階にも適応するようにプログラム編成が行われている。また、子供達にスポーツへの興味や動機づけを与えるだけでなく、青少年スポーツ関係者のためのプログラムでもある。7段階のプログラムは次の通りである。

1. Sport Start (遊びながら基本的な身体の動かし方を身につけさせる幼児向けプログラム)
2. Sport it (運動能力を身につけることを目的としたプログラム)
3. Ready Set Go (今までに修得した技能、テクニックを使って誰もがゲームに参加できるプログラム)
4. Active Girls Campaign (中学・高校生の女子が積極的にスポーツ参加ができるように勧めていくプログラム)
5. Sport Serch (中学・高校生がコンピュータを使って自分の能力にあった自分の好きなスポーツを自分で選択できるプログラム)
6. Sports fun (小学生のための放課後用スポーツプログラムで、近隣の中・高生がボランティアで指導にあたるプログラム)
7. CAPS, Challenge Achievement and Pathways in Sport  
(14才から20才までの青少年を対象としたリーダー養成プログラム)

### Ⅲ. S校におけるオーグスポーツ科目の概要

「オーグスポーツ」は毎週火曜日、60分間の授業で、理論または実技が行われている。担当は西オーストラリア政府機関、スポーツレクリエーション省、スクールティーチャー、Joanna Daviesの指導で、日本人通訳による講義が行われている。

受講学生はS校2年スポーツインストラクター学科、健康管理学科、トレーナー学科、社会体育学科、スポーツマネジメント学科が対象である。また、カリキュラム導入の目的は、指導プログラムを理解させると同時に、将来の指導者として、受講生自身が実際に指導が行えるよう体験させることである。

S校では、「オーグスポーツ」(タッチフットボール、ネットネットボール、カンガクリケット、Tボール)の4種目を導入している。

### Ⅳ. 受講学生の反応

受講学生(51名)の反応をみるために、前期の中間時点において簡単なアンケート調査を実施した。調査項目は大別して、1)理論に対する興味の有無、2)実技(主にタッチ)に対する興味の有無、及び3)今後の指導に取り入れるか否かであった。その結果は図1、2、3、である。

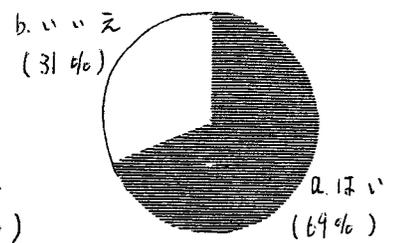
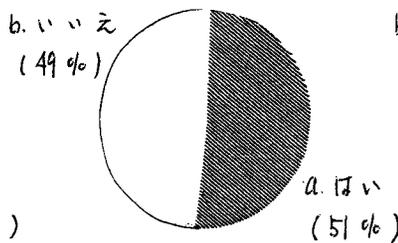
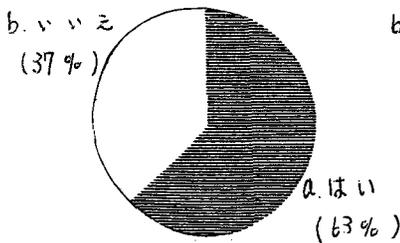


図1 興味の有無(理論)

図2 興味の有無(実技)

図3 導入希望の有無

図1に示すように、理論に興味を示した学生は63%となった。外人教師であったが、理解のしやすさを感じられたことに帰因するといえよう。図2は、実技に対する興味の有無を示したものである。興味を持った学生は51%と約半数であった。これは、実技がまだ中途であり、種目数が少ないことによるものと推測される。

図3は、導入希望の有無を示したものであるが、導入希望者は78%であった。これは受講学生の多くが、将来はインストラクター(指導者)を目指していることに帰因するといえよう。

### V. まとめ

以上のことから、S校においてオーグスポーツに対する受講学生の反応は、現在のところ、全体的にみてやや積極的に興味を示す傾向にあるといえる。特に女子学生にその傾向が高いことが明らかになった。また、日本においても幼児期から競技スポーツに参加するだけでなく、生涯を通して参加できるスポーツを体験していくことも重要であろう。